



TIAニュース

NO. 10 1997

編集・発行 財団法人 高松市国際交流協会
〒760 高松市番町一丁目11番63号 アイバル香川内

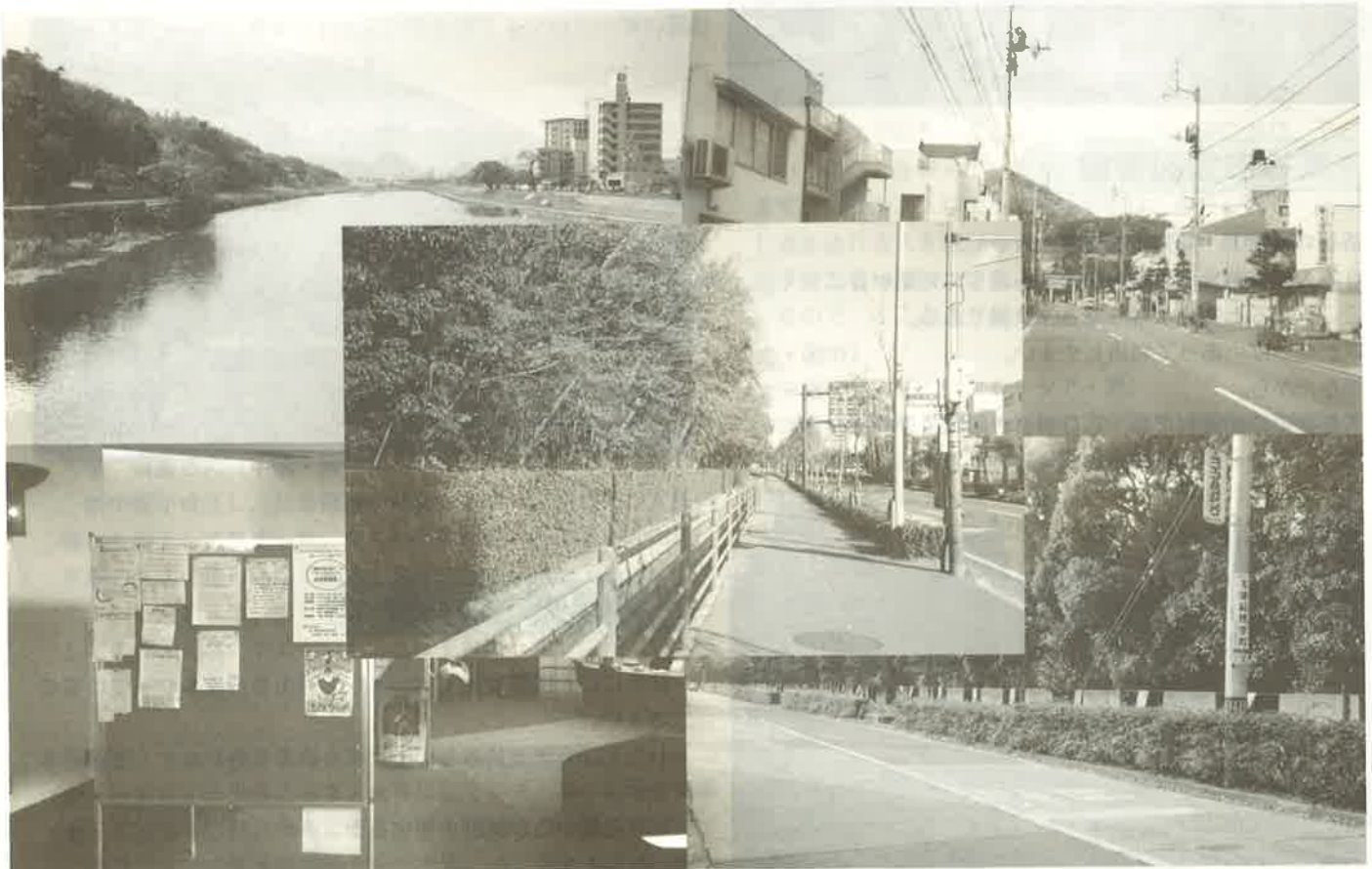
特集

高松のここがすきっ！

～外国人の見た高松～

- ★今年も熱かった！高松国際交流青年のつどい
- ★高松まつり 国際交流おどり子連おどりの声
- ★ガレージセール大好評！
- ★仏生山国際交流会 さぬきの味を南昌で！
- ★高松・南昌友好会館完成！
- ★姉妹・友好都市情報

- ★こんにちは 国際交流団体
- ★南昌市農業研修生へのインタビュー
- ★グローバルトークング
“女と男、仕事と家庭もっとやさしく生きあうために”
- ★お知らせ
- ★高松在住外国人登録者数



高松のここがすきっ！

～外国人の見た高松～

高松に住んでいる人や仕事をしている人、たまたま高松に来ていた人など外国の人50人にアンケートをしました。「高松市内で、あなたの好きなところはどこですか？」という質問に対して、次のような答えが返ってきました。

アイパル香川



理由

- ・外国人を含む多くの友達と話す機会がもてる唯一ほっとできる場所。
(バングラデシュ・男)
- ・日本語講座に参加して、覚えた日本語をすぐに使えるチャンスがあるから。
(中国・男)
- ・たくさんの国の人と交流できるから、自分の知識とか経験も増えてよい。
- ・日本人や外国人と知り合って、話をしているうちに言葉などの面で交流できるから。
- ・各国の新聞がそろっているし、設備もすばらしい。
- ・国際的な行事に参加できる。
- ・ビデオや各国語で書かれてある雑誌をみることができるし、友達を見つけることができる。
(メキシコ・男)
- ・静かでよい。

高松市立図書館

- ・新しい建物で、勉強する環境がよい。
- ・日本の伝統的文化や歴史など本を通して知識が身につく。
- ・ここへ来ると気分が落ち着き、快適である。
- ・本がいっぱいあって利用しやすい。
(中国・女)
- ・静かだから。
(中国・女)
- ・本を探すのが便利だし、LDやCDも利用できるから。



中央公園

- ・休日には、国際交流イベントなど沢山の行事をやっているの
でよい。
- ・わたしは自然愛好家なので、木々のある静かなところが好き
です。
(ペルー・男)
- ・娘が公園でのびのびと遊べるから。
(フィリピン・女)



栗林公園



- 全体にとってもきれい。 (タイ・男)
- 有名なところだから。
- 松や鯉が独特で、松には松の風格があり、鯉は自由自在に泳いで公園に落ち着きがある。
- とてもきれいで、散歩することができる。
- 松や歩道がよく手入れされていて素晴らしい。 (アルゼンチン・女)
- ゆっくり休憩したり、落ち着きたいときはすごくいいところだと思う。
- いっぱい見るものがある。花とか魚とか動物とか。 (モロッコ・女)
- 広々として自由に遊べるところがある。 (中国・男)

商店街

- 商店街を歩くと、沢山の店と大勢の人をみることができる。 (メキシコ・男)
- 店が多くて、品物もすばらしい物がいっぱいあるから。 (中国・女性)
- 店がいっぱいあるので、買い物をするときに便利だし、いろいろな品物を自分で選ぶことができる。



香東川の自転車道と栗林公園の横の自転車道



- 通勤や通学のラッシュをさけるため、朝早く通ります。朝は、とても静かできれいです。
- 香東川は、街のにぎやかさから少し離れることができます。私はここをサイクリングするのが大好きです。 (アメリカ・男)



裏道を自転車で通ること

- 高松の裏道には素晴らしい魅力や個性があって、それを楽しんでいます。 (アメリカ・女)



以上の場所のほかこんな所をあげてくれました。

○瀬戸内海

海はきれいで、大きな力があって、人の力ではどうにもならないものだからすばらしい。

○高松市美術館などの画廊

各分野の作品があり、観るのは楽しい。(アルゼンチン・男)

○スーパーマーケット

スーパーマーケットはなんでも揃いそこで気軽に買うことができるから (バングラデシュ・男)

○女木島

子供のためには良い環境だと思います。海が見えてとてもきれい。

○旧空港(林町)

まわりが静かで、広々としていて景色がとてもきれい。

(コロンビア・男)

○ファミリーレストラン

・料理がおいしい。

・店内が清潔で目新しい

・ウェイターが英語ができて、マレーシアのことを知っていたのがうれしかった。(マレーシア・男)

○教会

・多くのクリスチャンと集まることができる。

(スペイン・女)

・たくさんの友達と知りあえるから。

(アメリカ・男)



ここは
嫌い...

それでは、好きではないところとどんなところですかと質問したところ、こんな答えが返ってきました。

○人が英語をしゃべってくれない。
(マレーシア・男)

○ごみ焼却場で燃やしている臭いがする。これは環境にも良くないと思う。
(アメリカ・女)

○商店街を走る自転車がたいへん危ないと思います。

○市内にスポーツするクラブがない。
(モロッコ・男)

○小学生は冬でも夏の制服を着ていて、風邪をひかないのか？

○狭い道路が多くて分かりにくい。
(コロンビア・男)

○JR高松駅。人が多いわりに駅が小さいと思います。
(アルゼンチン・女)

○公衆トイレが不潔。

「アレッ」という奇抜な結果は得られませんでした、「好きなところ」としては、静かできれいな所というのが圧倒的に多くありました。同時に人出の多いところもあげています。一方「嫌いなところ」は、町中の道の狭さや汚さなどを感じているようです。

こんな簡単なアンケートからも、在住外国人が高松の風光をめでながらも混雑した市内で不潔さを感じ、人との交流を求めながらも日本語しか話してくれないもどかしさを感じていることが伺えます。スポーツをしたいのにその施設や機会がないという人もいました。これらは、外国人の目というよりも、私たち市民も同じような気持ちを持つのではないのでしょうか。私たちは在住外国人の方々が高松市に対してこういう風を感じているということを心に受け止め、共に助け合って生活し、国際交流を深めていきたいと思っています。

今年も熱かった！ 高松国際交流青年のつどい in 海岸寺

高松市民と在住外国人がいっしょになって豊かな自然の中で野外活動を楽しもう！ということで、今年も高松国際交流青年のつどいを7月20日から1泊2日の日程で多度津の海岸寺で開催しました。

まずバス2台のバスに乗り向かったのは“少林寺”。道場の人がすごく迫力のある人ばかりで、一瞬「強化合宿か？」と不安がよぎりましたが、少林寺拳法についてわかりやすく話してくれたり、簡単な技をいくつか体験させてくれ、記念写真も撮り和やかな交流となりました。



再びバスに乗って海岸寺に到着。広間に入って住職のありがたく面白いお話と、独特の“歌”を拝聴して活動を開始しました。

リラク্সゲームで軽く体をほぐしていくうちに、参加者同士もだんだん打ち解けていきました。そのあと、グローバル・ノスタルジック・コミュニケーション（日本の古き良き時代を体験しようというもので屋台をグループごとに作り、呼び込みをはじめる人もいました。わらびもち、ポップコーン、わなげ、くじびき、かきごおりなど、いろいろなお店を出してチケットでの買い物でお互いの屋台回りを楽しみました。



次に班対抗のドッジボール大会をして、最後の国際試合では国際チームの大奮闘に日本人側は大敗でした。夜はキャンプファイヤー。厳かな点火式のあとは、各班の出し物、踊り、歌、ゲーム等ファイヤーを囲んで盛り上がった夜でした。

一夜明けてすがすがしい朝をむかえ、朝の体操は参加者全員で中国の気功を行いました。先生は中国南昌市からの研修生鄒達敏さんです。朝食のあと大扉風まんだら園をグループ毎に交流をしながら散策して見学の後お寺に戻りました。

広間で世界の国を知ろうと、環境問題を含んだ各国のゴミ事情や各国の遊びなどを話し合い、お互いの国を勉強しました。自分の国をみんなに知ってもらいたいいいチャンスなので、皆さん熱心に討論しました。

バイク形式の昼食を最後に、2日間のキャンプが終わりました。帰りのバスのなかでは、住所の交換があらこちらで行われて別れを惜しんでいました。これを機会にお互いの友情が生まれ、交流がずっと続くことを祈っています。お疲れ様でした！！

高松まつり「国際交流おどり子連」 おどり子の声

GREGORY STRONG

JANA DEE DONOHO-STRONG

今年の夏も8月12日から高松まつりが行われ、私たちT・I・Aも「国際交流おどり子連」として参加いたしました。多勢の方が参加してくださり「一合まいた」の踊りで大変盛り上がりました。参加者のストロング夫妻に感想を聞きました。

「はじめ、高松まつりの国際交流おどり子連に参加しませんかと誘われたときに、すぐに“はい”と言ってしまいましたが、みんなの前で踊り方をまちがえてしまうのではないかと少し不安でした。しかし、みんなとても優しく踊り方を教えてくれたし、私がリラックスできるような雰囲気をつくってくれたので、すぐに楽しむことができました。

高松まつりの当日の夜には、たくさんのお話を聞きました。日本人はとても楽しい人が多いこと。外国人を温かく迎え入れてくれるということ。そして、私達は素晴らしい時間をすごしました。また、友達もできたし、いい経験もできて、人生のなかでもいい思い出ができました。

結局踊りはマスターできなかったけれど、少しでも“やってみよう”とか“楽しもう”ということが大切であり、価値があることではないでしょうか。」



外国人のためのガレージセール大好評!!



11月23日(土)、24日(日)に行われた『かがわ国際交流フェア』で、当協会は「ガレージセール」を出店しました。「ガレージセール」と名前はついていますが、在住外国人の皆さんに無料で提供しようということで店を出しました。

これらの善意の品物は、市民の皆様にご提供いただいたものです。どうもありがとうございました。

さて、まったく初めての試みで、お客さまは来てくれるかなという少しの不安を抱きながら、店を開けました。すると2日間合わせて何と250人近い在住外国人のかたが来てくださり、そしてたいへん喜んでくれました。

テレビ、ワープロ、ストーブなどの電化製品は、希望者が特に多いため抽選しました。品物が抽選されるたびに、歓声とため息が同時におこり、「おめでとう！」とあちらこちらから声がかかるなど、大いに盛り上がりました。

今回は小さな店を出して行いましたが、当協会では『ゆずります』というリサイクル品の登録を随時受け付けております。もしご家庭で、ご不要になりました生活用品があればご一報下さい。

▶ さぬきの味を南昌で!! 仏生山国際交流会の南昌訪問記 ◀

昨年5月に開館した高松・南昌友好会館に、さぬきうどん、さぬき米によるカレーライス等さぬきの味覚を持参して、高松市で研修された研修生等、南昌市民との友好交流を目的に10月11日から13日まで団員21名が訪問しました。11日、南昌空港到着の熱烈歓迎から、13日南昌を発つまで劉市長を始めとして心温まるもてなしを受けました。



熱烈歓迎 /

館長自らの5千年の歴史を語る中国の宝物等の説明を聞き、中国の奥深さを感じ取ることができました。

夜は、お世話になったお礼として友好会館にて団員による食文化交流を開催し、市長を始め、研修生OB約30名の方々に出席していただきました。手分けして持参した食材や器具をつかって“山田家”さんの本職が粉を練り打ち、汗だくで実演しながらうどんの紹介を行いました。

会館の中国人スタッフ約20名も、一緒になって麺づくりに参加して団員とともに麺を茹で洗うなど、言葉は通じなくても目と心で、90



プロによる実演中

玉のうどん作りに成功し、各々の胃袋に収まりました。

さぬき米によるご飯も、中国の(むす)・日本の(炊く)の両方式により、さぬき米カレーとして50食、うどんと共に大好評でした。

訪問の目的である食文化交流が、友好会館で身近かに友好的に図れたのは、宿泊施設の充実、スタッフの応対、サービスも良好、その

上高松市で研修したOB達の温かい友好交流がプラスされ、気持ちも安心できて充実したからだと思います。このような高松・南昌友好会館に今後1人でも多くの市民が訪問し、利用されることを切に望みます。

南昌市友好訪問に当たって、前市長脇様、国際交流課、財団法人高松市国際交流協会の方々にお世話になったことを申し添えお礼申し上げます。

仏生山国際交流会 代表 十河 瞳



うどんのお味はいかがですか？



さぬきのカレーもハオチー（おいしい）

高松・南昌友好会館での交流	
11日夜	南昌市長様による歓迎会 高松市で研修した研修生OB達が参加
12日早朝	高松・南昌友好会館中庭での太極拳の実演と体験
夜	答礼会 訪問団員による手作りさぬきうどんの実演とさぬき米カレーにて食文化交流

高松・南昌友好会館完成！！

高松市と南昌市は1990年9月に友好都市の提携をして以来幅広い親善交流を続けており、着実に友好関係を深めてきました。そこで、95年がちょうど友好都市提携5周年の節目に当たるのを記念して南昌市に両市共同で友好会館を建設しました。

風光明媚な青山湖のほとり、緑の木立の中にたたずむ友好会館。市中心部から車で10分ほどの静かな環境のなかで、旅行・出張・商談などに利用できます。

会館紹介パンフレットをご用意しています。



姉妹都市セント・ピーターズバーグ市の ホットニュース

姉妹都市招へい教師 ザッカーリー・リゲット

過日、セント・ピーターズバーグ市は市民と警官が衝突して逮捕者や多額の被害を出し、世界のマスコミの注目を集めました。この暴動は市内の貧困地区の一つで、警官が一人の黒人を射殺したのがきっかけで発生しました。一般にセント・ピーターズバーグは退職者には絶好の陽光降り注ぐ避寒地として知られているところで、アメリカの社会問題という時に通常思い浮かべるようなところではありません。しかしここで長く生活している人には、暴動が起こっても驚くにあたらないところなのです。国内の他の大都市と変わらずここも失業、犯罪、貧弱な学校、警察と住民との危うい関係等、数え切れないほどの社会問題の解決のため奮闘しているわけです。

収入格差の拡大は資本主義経済の主要な欠陥であると指摘する人も大勢いますが、セント・ピーターズバーグの南部地区はその典型的な所です。メキシコ湾沿いには豪華な高級住宅が立ち並び、裕福な退職者が住む地域ですが、海岸を離れると、主として低所得層の家屋やアパートがあり、その日暮らしの住民が住んでいます。

貧困地区にとってはしばしば警察が自分たちの貧困の元凶の一大シンボルとなります。貧しい市民にとって警察はいつも自分たち貧しい者だけを狙って逮捕すると感じているのです。従って目に見えないこの敵意は知らない間に人々に蓄積し、先日の暴動事件のようなことが起こり、世間に露呈されるのです。アメリカの直面しているこの諸問題を裕福な側の市民が認識して立ち向かうには、不幸にもこういう暴動のような「ショック」が必要なのです。数年前にロトニー・キング事件がロサンゼルスでの大暴動を引き起こした時と同じです。

都市内部のさまざまな問題が徐々に住民に影響をあたえるにつれて、目に見えない敵意は富める者と貧しき者との間にでき上がり続けるのです。貧しい人達の問題に対応できないなら、セント・ピーターズバーグで起った様な暴動は広いアメリカのいたるところで繰り返されることでしょう。大勢の失業者が21世紀を生き抜くことができるような職業訓練を受けられるよう援助をしなくてはなりません。犯罪や麻薬の常習は、そういう病弊を培う環境を改善するための真剣な努力によって正しいチャレンジをしなくてはなりません。そして何よりも最初にすべきことは、21世紀のアメリカを担うアメリカの青年達の行動、態度、様々な能力を形成するために重要な役割を果たす教育制度の改善に取り組むことが必要です。

(ザッカーリー・リゲット 高松市の姉妹都市である米国フロリダ州セント・ピーターズバーグから派遣された英語教師として在高中。(1996年9月～1997年8月) エッカード大学在学中の四年間をセント・ピーターズバーグで過ごした。)

南昌市の話

南昌市農業研修生 鄧 金根

今年は南昌市に、高松・南昌友好会館ができました。ここは、南昌市の中心に近く、そばには青山湖という大きな湖があって、環境の良いところです。南昌市は、交通の便がよく、交通量は

高松よりも多いと思います。自動車も自転車も多いです。バスも電車もあるけれど、南昌の電車というのは、バスとほとんど同じです。見たところバスですが、上を見ると電線につながっているのです。電車といってもレールの上は走らないのです。南昌市民はこれらを使って通勤したり遊びに行ったりします。自家用車もだんだん増えてきましたが、交通渋滞とか駐車場の事情のためバスを使う人が多いです。

お正月が近いので、お正月の話をしましょう。中国で正月といえば、旧暦で考えます。春節といいます。中国はとても広いので地域によって習慣も当然ちがいます。私のところでは旧暦の大晦日には、家族が集まって料理を食べます。しかし日本の年越しそばのように必ず食べる習慣のあるものではありません。そのあと家中のドアをしめて、火をたきます。火を囲んでお菓子を食べたりしながら新年を待ちます。実はこの時にお年玉をもらうのです。そして新年になると、一気にドアをあけて花火や爆竹を鳴らして新年を祝います。明るくなると、ご先祖様を祭ってある所にお参りに行きます。神社には行きません。そのあと、新年のあいさつ回りをするために親戚の家などに行くわけです。

自然を感じる街 トゥール市

香川県国際交流員 ソフィー・ル・ペール

フランスの首都パリの南西に位置しているトゥール市は、パリの影響をうけやすい街です。トゥール市にはルネッサンス時代のお城がいっぱい残っています。そのため、昔からの文化や伝統を大切に考えるがあるので、一般の住宅もそのお城と調和するようにデザインされています。

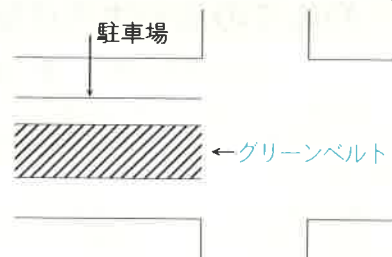
またトゥールの人は花や緑が大好きで、ベランダにたくさんの花を植えています。トゥールの大通りでは、週に2回花市が立ちます。通りの真ん中のグリーンベルトで花市をするというのはどういふことかと思われるかもしれないですね。高松市内の中央通りのグリーンベルトよりも、もっと大きいのです。グリーンベルトのすぐ横に駐車場があるので、車でも大丈夫です。どんなのかというと、この図の感じです。

これだけ花や緑が好き
なトゥール市民ですから、
休日が晴れているとハイ
キングにでかけます。さっ
き言ったように、トゥール
には古いお城があるし、

ちょっと郊外にでると田舎と林が続いているので、家族や友人とのんびりするには大変良いところなのです。田舎と言いましたが日本の田舎のように田んぼや畑があるわけではなく、ただ草むらや林がだだっ広が続いているだけです。

トゥールの人にとって休日は、のんびりとリラックスする日のようです。アーティストとか職人さんが多いのも、こんなゆったりとしたところがあるからなのでしょう。こういうところは高松と似ていると思います。

ところで、最近は大きなストライキがあってから街の中に自転車が増えました。みんな通勤にマウンテンバイクを使うようになってきました。これは以前と変わったところですね。



国際交流団体紹介

さぬきっ子地球クラブ

—自由な発想で身近な国際交流を手弁当で—をモットーに、15年前から、香川県をエリアに活動している“ふるさと香川のNGO（非政府、非営利団体）”です。『閉鎖的な日本人社会に地球市民的な発想を』と意識改革による国際化を望んでいます。今行っている主な活動は次のとおりです。

1 ワールド・サッカー

日系ブラジル人とアジアの留学生そして日本人の混合チームで親睦を目的としたサッカーチーム。月1回程度練習試合をします。

2 さぬきっ子式・日本語教室

日本語を教わりたい人と教えたい人の自然な教室。カリキュラムも手作り。

3 テレカ・エイド

使用済みテレホンカードが、ヨーロッパで大人気。収益金で救援物資を買い、東南アジアの人に手渡します。現在約50万枚集まりました。ありがとうございます。

会員は20歳～30歳代で、週1回例会ではいつも新しい発見があります。あなたのアイデアが、即採用、実現するかも。

さあ！あなたも地球サイズのボランティアを！

【連絡先】 さぬきっ子地球クラブ

高松市番町4-8-23 吹田ガーデン番町ビル4階

吹田 健児（ふきた けんじ）

TEL 0878-62-8881（留守番電話対応）

〔昭和63年度青少年育成国民会議会長表彰受賞〕



◀ アットホームなさぬきっ子式日本語教室

高松市日本中国友好協会 「もっと知ろう お隣の国」

「高松市日本中国友好協会」は平成2年に発足し、今年で6年目を迎えました。今まで高松市と友好都市提携を結んでいる中国、江西省南昌市との相互交流を中心に、様々な事業を行って来ましたが、当協会の最近の活動内容をご紹介します。

一、3月から3ヶ月毎に1回、日本人が中国語で、中国人が日本語で意見発表する交流の場を設けています。

二、4月から中国人留学生を先生として、中国語の小人数レッスンを行っています。

三、5月には、南昌市の高松・南昌友好会館落成式に参加し、友好の桜の植樹も行いました。

四、8月には2人の講師を招き、今の中国事情や環境問題について講演してもらいました。

五、10月には、昨年に引き続き「平成8年度中国語学習者のつどい」を開催しました。

六、会報の発行は、次回が第10号となります。

このように、事務局のスタッフは多田野会長のもとで日中友好のために頑張っていますので、皆さんも積極的に参加してください。

高松市日本中国友好協会事務局 漆原記

【連絡先】 高松市古馬場町13-23 もときビル3F

TEL 0878-21-0348 ・ FAX 0878-26-2578



「つどい」で中国女性と一緒に歌う出場者

初めての高松生活体験インタビュー

南昌市農業研修生 鄔 達敏さん・鄧 金根さん

高松市の友好都市中国の南昌市からの農業研修生の、鄔達敏さんと鄧金根さんに、1年間高松に住んでいた感想などをお聞きしました。

・帰国前お忙しいですね。高松では一人暮らしをしていたそうですが、大変だったことはありませんか？」

(鄔)「不便を感じることはなかったです。買い物するにも大変便利でした。自分で料理をつくらなければならないので、スーパーにはよく行きました。野菜は中国のほうが種類が多いけれど、調味料の数は日本のほうがずっと多いですね。中国ではそんなに調味料を使わなかったの、高松で自炊した時もあまり使いませんでした。」

・鄔さんは、気功ができて、国際交流フェアでも講座を持ちましたね。高松でも毎日練習していたのですか？」

(鄔)「もちろんです。毎朝6時に起きて、マラソンをしてから40分くらい気功をしていました。ラジオ体操帰りの人に、太極拳ですかと聞かれたこともあります。日本人は、太極拳と気功を同じものだと思っている人がいるのです。」

・南昌市と高松市はここが違うなと思ったところはどこですか。」(鄧)「高松は静かな街ですね。夜は特にそう思いました。南昌は夜でもにぎやかです。車の数も高松より多いと思います。」

・「南昌に帰ったら一番に何をしたいですか？」

(鄧)「新しい野菜育苗センターをつくりたいと思います。南昌には、いちごとカアスパラガスが少ないので、その栽培もやってみたいです。」

(鄧)「家族の顔を早く見たいです。」

・どうもありがとうございました。」



鄧さん



鄔さん

グローバル・トーキング ～国を越え、性を越えた社会づくり～ “女と男 仕事と家庭 もっとやさしく生きあうために”

11月9日（土）午後1時30分から、錦町の高松市女性センターでグローバル・トーキングを開催しました。「国を越え、性を越えた社会づくり」をキーワードに、「女と男、家庭と仕事、もっとやさしく生きあうために」をテーマに、在住の外国人の方々をゲストスピーカーに招いて、それぞれの国での現状を話していただきました。

各国の話に先立って、香川大学経済学部教授で当協会の理事でもある井原理代先生に、オープニングトークとしてご自身のドイツでの経験を紹介していただきました。

ゲストスピーカーによる話の後、会場から男女の役割などについての質問等も飛び交い、楽しい雰囲気のトーキングになりました。

・マーティン パリジェンさん（アメリカ・男）

アメリカの女性は、もし結婚するとしたら、相手にはお互いの夢を尊重しあえる人を選びます。また、経済的にも自立しています。日本には、嫁ぎ先が商売をしていたため、自分の夢をあきらめてしまっているという人もいます。アメリカでは自分の夢と、相手の夢があわないとまず結婚しないと思います。女性も男性と同じように自分の夢を実現しようとしています。

・ナヒド ソバハニさん（イラン・女）

イランといえば、女性はベールをかぶり男性の言いなりだと思っているかもしれないけれど、実は違います。150年前にバハウラとその弟子のターヘルという人が、男女平等を伝えて回って、1911年には女性の学校も設立されました。女性達の教育は、母親になった時に子供に自分の受けた教育を教えるためにも大事だと思っています。男女はどちらが強すぎてもいけない鳥の翼のようなものだと言われています。

・張 利利さん（中国・女）

封建時代には女性の地位が全くなく、革命時代になって男女とも同じように革命を行うことによって思想が変化し始め、新中国の建国により、革命運動に参加した女性で重要なポストについたり、男女平等のために活躍した人も多くなりました。今では仕事上の待遇は男性と同じですが、近代化に伴って女性は出産のため有給休暇をとるので、男性を採用しがちになるという現象がだんだん増えてきています。

・李 衛星さん（中国・男）

新中国が成立し、社会経済が発展していくにつれて、女性の地位も向上して来ました。全くの平等が言われてきましたが、実際の生活に踏み込んで見ると家庭や個人によって事情は様々です。社会的には、男女平等の機会を与え、個人的には人間としての相手を思いやるということにすれば、幸せに過ごせるのではないかと思います。

・笠松 カロリーナさん（パラグアイ・女）

パラグアイ人女性と日本人女性は似ていて、多くの場合家事をしています。外に働きに出る女性も増加していますが、完全に両立できている人は20%くらいです。パラグアイでは、女中

さんが家事をしてくれるので、経済的に女性も外へ出て収入を得ないといけません。共働きをしている状況では、夫婦は家事を分担するべきではないでしょうか。



・アショク クマール ゴッシュさん（バングラデシュ・男）

バングラデシュでは、中学校には共学の学校もありますが、男子校や女子校のほうが多く、共学でも1つのクラスで男子学生と女子学生は別れて座ります。女性の向上には、社会が発展したためにいろいろなプログラムが組まれました。もし女性が経済的に男性に依存してしまうと、女性は男性と同じ立場に立つことができないので、女性も経済的に自立できるように教育環境も平等にして来ました。

・平田 佳代さん（ブラジル・女）

ブラジルでは家庭のなかに役割があって、子供も手伝いをするし、夫婦も家事を分担するというのは当たり前前の社会です。そして、お手伝いさんもいるので女性が働きやすいということも確かです。女性には女性の、男性には男性の役割や能力があり、それを認め合ったうえで自分に責任を持って仕事をして行くことが大事だと思っています。

・ソフィー ル ベールさん（フランス・女）

フランスでは男の子と女の子はいつも一緒に遊び、そこでいろいろなことを学んでいます。コミュニケーションを大事にします。フランス人にとって結婚相手は、自分と同じレベルで同じ道を送れる人を選びます。夫婦はいつも一緒に外出し、その間子供たちは家にいます。日本では母親が子供といつも一緒にいるので、ここが違う所です。

・ロン リムさん（マレーシア・男）

ほとんどの場合男性の地位の方が高く、女性の方が低いです。男性や女性にはそれぞれの責任ある役割があると思います。女性である魅力は失わないで欲しいです。経済の発展に伴って、女性の地位も徐々に上がっています。教育を受けている人は、大学を卒業して結婚しても、仕事は辞めずにメイドを雇います。経済発展のためには女性のパワーも必要なのです。

・モー モー ニェンさん（ミャンマー・女）

学校に上がる前に教えられる仏教の本は、男性によって書かれていたため、女性は良くないというようなことが書かれていました。でも女性は強いです。朝から家事をしているのは義務でも文化でもなく、深い愛情があるからだだと思います。家族のなかで大事な存在であるということ意識することが大事です。

INFORMATION

—今回のおすすめ—

『ボランティアのための7か国語会議』発売中！！

ボランティアがホームステイで外国の方を日本に受け入れるとき、想定できる会話を英語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、ハングル、と日本語の7か国語で表現してみました。基礎的な表現に限られていますが、利用ご希望の方は当協会まで直接お申し出ください。

一冊 500円です。

在住外国人のための「日本語救急箱」(英語版、フランス語版、スペイン語版、ポルトガル語版、中国語版、ハングル版) 市内地図(英語版)、高松市内ガイドブック(英語版、ハングル・中国語版)などを用意しています。これらは無料なので、高松に来たばかりの外国人の人や、まだ高松での生活に慣れていない人におすすめです。

●在住外国人向け「日本語救急箱」



高松市に今外国人はどのくらいいると思いますか？外国人登録者は総計18,882人で、11月末現在の国別の数は次のとおりです。

■ヨーロッパ	■アジア	■北・中・南米	■アフリカ	オーストラリア (16)
オーストラリア (2)	バングラディシュ (7)	アルゼンチン (3)	エチオピア (1)	ニュージーランド (5)
ブルガリア (1)	ブータン (1)	ボリビア (7)	ガーナ (1)	
デンマーク (3)	中国 (501)	ブラジル (123)	リビア (1)	
フランス (2)	インド (3)	カナダ (25)	マラウイ (1)	
アイルランド (1)	インドネシア (15)	コロンビア (4)	モロッコ (5)	
イタリア (16)	イラン (1)	ドミニカ共和国 (2)	ウガンダ (1)	
オランダ (2)	韓国又は朝鮮 (679)	エクアドル (4)		
ポーランド (1)	ラオス (1)	ホンデュラス (2)		
ポルトガル (2)	マレーシア (17)	メキシコ (2)		
ロシア連邦 (3)	ミャンマー (1)	ニカラグア (2)		
サンマリノ (1)	パキスタン (4)	パナマ (1)		
スペイン (29)	フィリピン (224)	ペルー (76)		
スイス (6)	ソロモン (1)	アメリカ (46)		
スロヴァキア (1)	スリランカ (1)	ベネズエラ (1)		
イギリス (14)	タイ (9)			
	トルコ (1)			
				無国籍 (3)

〔編集後記〕

人間は、今日もなお、人種、宗教等の土壌を築き上げて、差別し、争うことがあります。その土壌にたくさんの蟻の穴を開けるのが交流の目的です。本年度も多くの出会いがあり、国境を越え、性を越えてというテーマの話し合いもしました。ささやかな交流の輪にも多くの夢があるとの思いで、楽しい編集をさせていただきました。(事務局)



1997年1月 (Vol.10)



財団法人 Takamatsu International Association
高松市国際交流協会

〒760 香川県高松市番町一丁目11番63号
アイバル香川内
TEL (0878) 37-6003
FAX (0878) 37-6005
I PAL KAGAWA, 11-63 Ban-cho 1-chome
Takamatsu, Kagawa